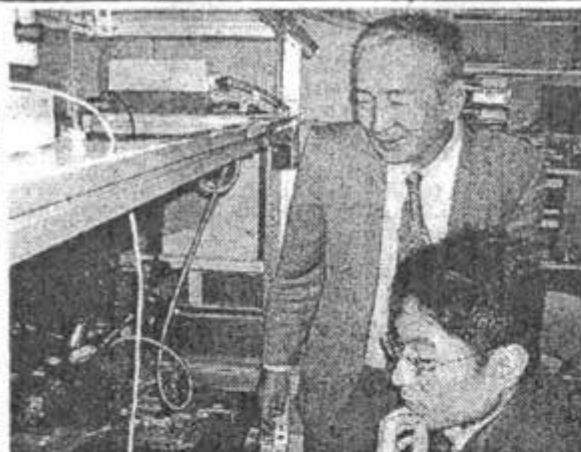


江刺研究室(東北大)評価1位

産学連携特別調査



江刺正喜教授の研究室はMEMS研究の草分け(東北大学)

企業が期待や関心を抱く「21世紀

日経産業新聞の「産学連携特別調査」は企業が高く評価している大学の研究室についても聞いた。有効回答五十一社のうち、最も多くの企業から支持を得たのは東北大学の江刺研究室(江刺正喜教授)だった。このほか大阪大学の川合研究(進教授)など産学連携企業の連携が予想以上に

江刺研究室はソニー、キヤノンなど大手企業からの派遣研究員を積極的に受け入れている。「学の研究成果を確実に業の現場で活用できるようにして、ビジネスに結び付けてもらう(江刺教授)」という姿勢が評価を受けた。

江刺教授は微小電子機システム(MEMS)研究の草分け。「最先の技術を応用分野まで広く研究していること、企業にとって魅力的(手電機メーカー)とのが多かった。MEMS



研究室の構成 :

スタッフ 4、ポスドク 4、大学院生 20、学部学生 4、客員 5

企業からの派遣研究員 : 常駐 15、非常駐 20

外国人 22

研究資金 : 約1億円 (人件費を除く、2003年度の例) :

65%は民間、35%は科学研究費など (公的資金への依存が少なく、自由度が大きいいため、効率良く成果をあげられる)

日経産業新聞の「産学連携特別調査」は企業が高く評価している大学の研究室についても聞いた。有効回答五十一社のうち、最も多くの企業から支持を得たのは東北大学の江刺研究室(江刺正喜教授)だった。このほか大阪大学の川合研究(進教授)など産学連携企業の連携が予想以上に